

Title	新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査(JGRAD ウェブアンケート)
Author(s)	齋藤, 経史; 星野, 利彦; 梅川, 通久; 齊藤, 貴浩
Citation	年次学術大会講演要旨集, 36: 336-339
Issue Date	2021-10-30
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17822
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

2 A 2 1

新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査 (JGRAD ウェブアンケート)

○齋藤経史（科学技術・学術政策研究所）、星野利彦（科学技術・学術政策研究所）、
梅川通久（東京工科大）、齊藤貴浩（大阪大学：科学技術・学術政策研究所客員） ksaito@nistep.go.jp

1. 調査概要

博士人材の活躍状況を把握するため、科学技術・学術政策研究所では博士人材データベース（JGRAD: <https://jgrad.nistep.go.jp/>）を構築・運営している。本稿は JGRAD の登録者に 2020 年 5 月に実施したウェブアンケート調査「新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査」の結果をとりまとめたものである。

（１）調査対象

2020 年 5 月 1 日時点で JGRAD に登録している博士課程在籍者および博士課程修了者・退学者のうちメールアドレスが記入されている全員に調査を行った。なお、本稿においては、博士課程修了者と退学者を合わせて博士課程修了者等と表記する。また、2014 年より整備を進めている JGRAD は 2020 年 5 月時点で、49 大学（国立大学 35、公立大学 8、私立大学が参加していた）。

（２）調査方法

調査依頼（日本語と英語）を電子メールで調査対象者全員に送付し、博士人材データベース上のウェブアンケート（日本語または英語）に回答を求めた。

（３）調査期間

2020 年 5 月 1 日～2020 年 5 月 25 日（当初 5 月 22 日を締め切りとしたが、延長）

（４）回答者数

調査依頼メール送信の対象者数：21,614 名

調査期間中の JGRAD へのログイン者数：2,084 名

回答者数：1,105 名（博士課程在籍者 729 名、博士課程修了者等 376 名）

調査依頼メール送信対象者数に占める回答者数：5.1%

調査期間中のログイン者数に占める回答者数：53.0%

（５）アンケート調査項目（択一式：20 問、自由記述：2 問）

- [1] 「新型コロナウイルス流行」の研究活動への影響に関する項目
- [2] 「新型コロナウイルス流行」による研究計画の変更に関する項目
- [3] 「新型コロナウイルス流行」が大学へ行くことに与えた影響に関する項目
- [4] 「新型コロナウイルス流行」による収入への影響に関する項目
- [5] 「新型コロナウイルス流行」による博士号の取得見込みへの影響に関する項目
- [6] 「新型コロナウイルス流行」に対する研究や生活への支援策に関する項目

※日本語調査票への回答と英語調査票への回答を合算し、博士人材データベースに記録されている属性情報と照合し、集計した。

[問 1] [問 2～問 10（専攻分野計）] [問 1] に関して、専攻分野による違いを見るため、専攻分野別の

回答割合を示す。なお、専攻分野は学校基本調査を参考に、各回答者が在籍した博士課程の研究科を「人文（科学）」「社会（科学）」「理学」「工学」「農学」「保健」「その他」に区分した。

2. 調査結果概要

問1: 近時の「新型コロナウイルス」の流行による研究活動全般への影響

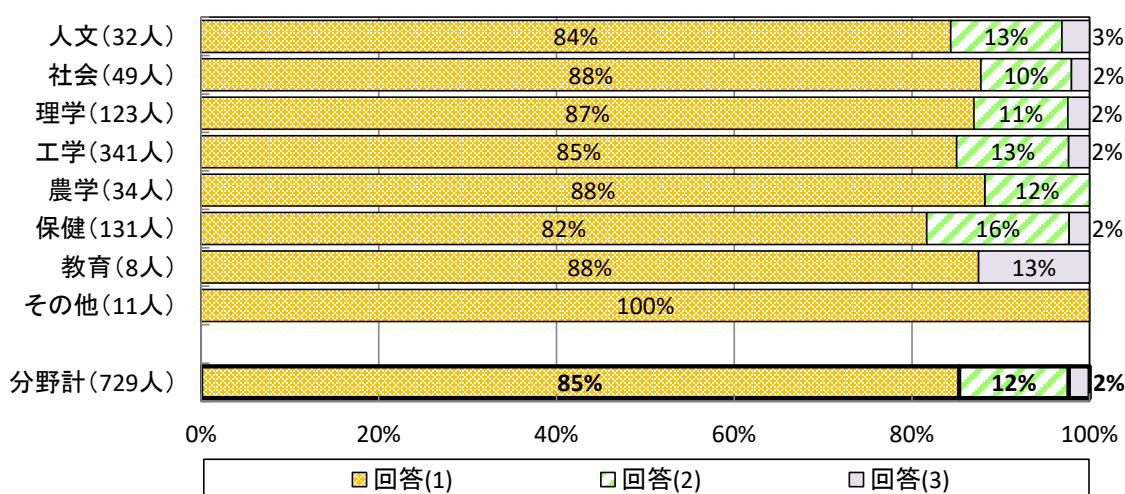
〔問1〕 近時の「新型コロナウイルス」の流行は、あなたの研究活動に影響を及ぼしていますか。以下の選択肢から1つ選択してください。

回答(1) 現時点で既に影響が出ている

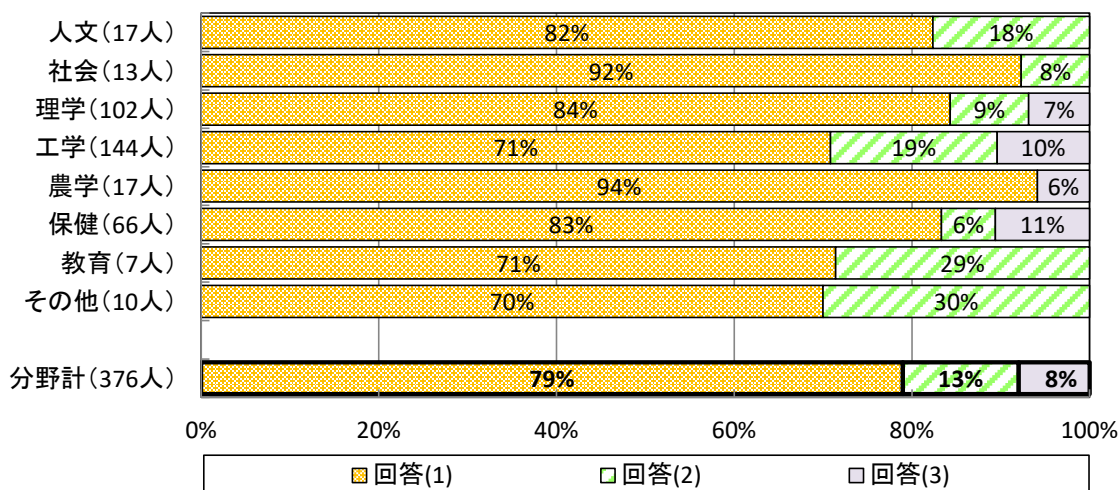
回答(2) 現時点で影響は出ていないが、今後影響が出る可能性がある

回答(3) 現時点でも、今後も影響はないと思う

図表1 専攻分野別：〔問1〕の回答割合（博士課程在籍者）



図表2 専攻分野別：〔問1〕の回答割合（博士課程修了者等）



〔問1〕に「回答(1) 現時点で既に影響が出ている」と回答した割合は、博士課程在籍者で 85%、博士課程修了者等で 79%であった。

問2～問10: 項目別の研究活動への影響と別手段による対応状況

[問2～問10: 専攻分野計 横断結果表示]

[問1]で(1)「既に影響が出ている。」、(2)「現時点で影響は出ていないが、今後影響が出る可能性がある。」と回答した方に伺います。新型コロナウイルスの流行により、どのような影響が出ていますか？あるいは出ると思いますか？以下の項目について、それぞれもっともあてはまる選択肢をお選びください。

[問2] 学会、シンポジウム、ワークショップ等の中止・延期

[問3] 共同研究、その他研究の推進に必要な会議・打合せの中止・延期・形式の変更(ビデオ会議等)

[問4] 学内のゼミその他授業の中止・延期・形式の変更(ビデオ会議等)

[問5] 研究活動に利用している建物・研究室、設備(実験機器)等の利用停止

[問6] 図書館の利用停止、通学の禁止により、論文・資料の検索・閲覧が制限されること

[問7] 試料(生物・化石・鉱物等)収集、屋外調査、フィールドワーク、実験等の中止・延期

[問8] 試薬・実験動物・機材等の調達の遅れ

[問9] 一部の国、地域への渡航の禁止、自粛

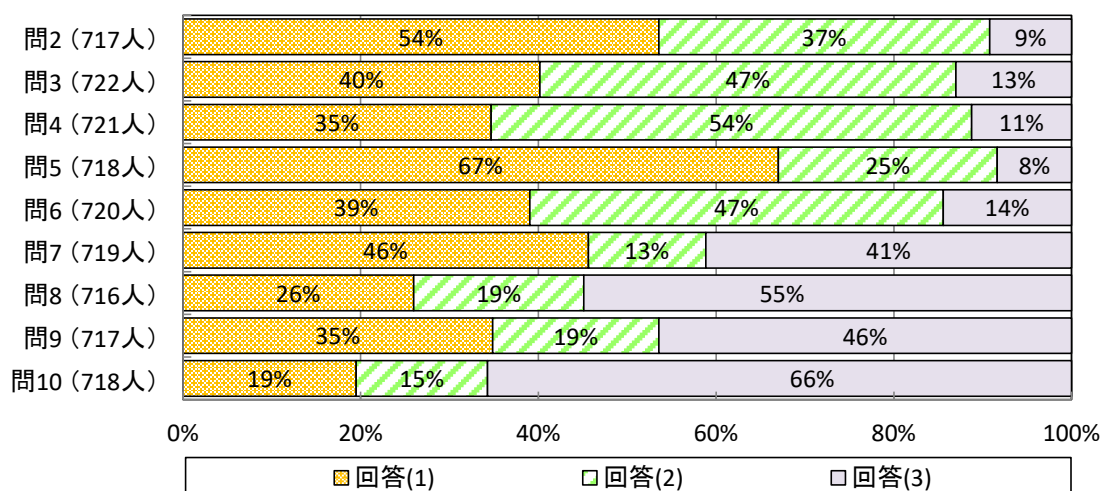
[問10] 一部の国、地域からの招へいの禁止、先方からの来訪の拒否

回答(1) 該当し、研究活動に大きな支障が出ている

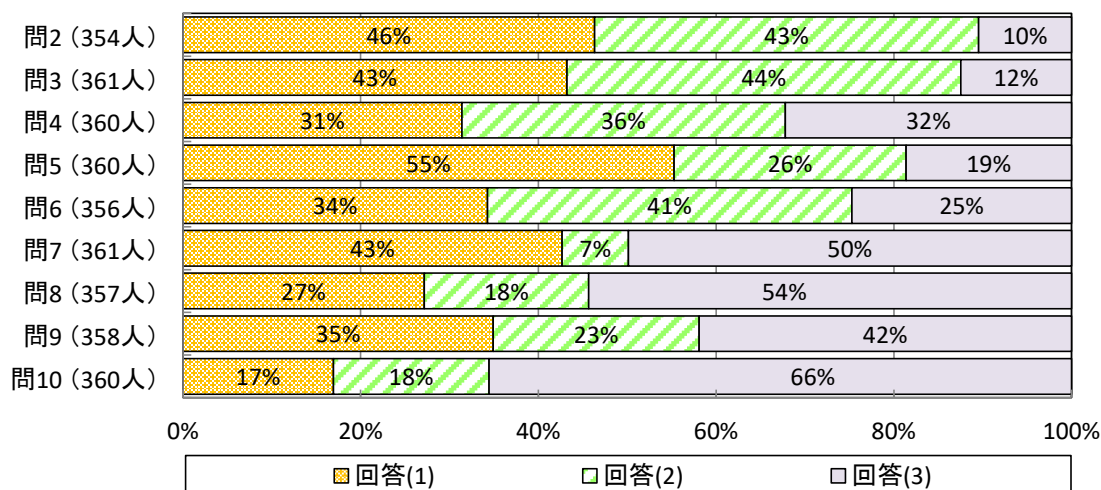
回答(2) 該当するが、別手段を講じるなど、研究活動に大きな影響はない

回答(3) 該当しない

図表3 [問2～問10]の回答割合(専攻分野計:博士課程在籍者)



図表4 [問2～問10]の回答割合(専攻分野計:博士課程修了者等)



[問2]～[問10]の中で、「回答(1) 該当し、研究活動に大きな支障が出ている」と回答した割合は「問5:研究活動に利用している建物・研究室、設備(実験機器)等の利用停止」が最も高く、博士課程在籍者で67%、博士課程修了者等で55%であった。次いで、「問2:学会、シンポジウム、ワークショップ等の中止・延期」で回答(1)の割合が高く、博士課程在籍者で54%、博士課程修了者等で46%であった。

問21: 新型コロナウイルス流行が自身の博士の取得時期に与える影響の見通し

[問21]博士課程在学中の方のみにお聞きします。新型コロナウイルス流行により、博士の取得の時期が遅れる可能性がありますか

回答(1) 博士の取得がすでに遅れる予定だ(あるいはすでに遅れた)

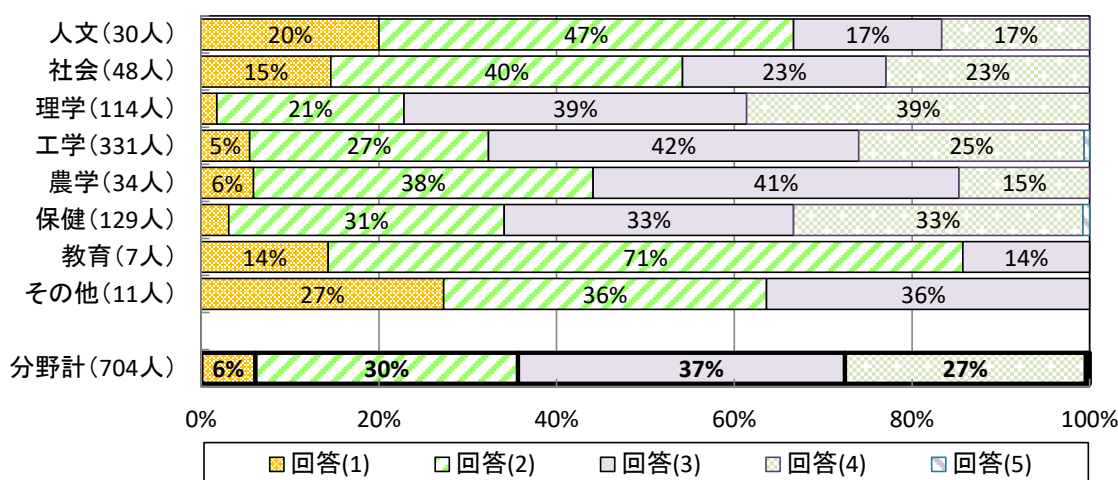
回答(2) 博士の取得が遅れる可能性がある

回答(3) 博士の取得が遅れる可能性がいくらかある

回答(4) 博士の取得が遅れる可能性はない

回答(5) すでに博士号を取得しており、関係が無い(この3月に取得した方を含む)

図表5 専攻分野別:[問21]の回答割合(博士課程在籍者)



[問21]に「回答(1) 博士の取得がすでに遅れる予定だ(あるいはすでに遅れた)」と回答した博士課程在籍者の割合は6%であった。また、「回答(2) 博士の取得が遅れる可能性がある」と回答した割合は30%、「回答(3) 博士の取得が遅れる可能性がいくらかある」と回答した割合は37%であった。

公表資料

齋藤経史, 齋藤貴浩, 梅川通久, 星野利彦「新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査—博士人材データベース(JGRAD)におけるウェブアンケート調査—」, NISTEP RESEARCH MATERIAL, No.298, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm298>